

令和2年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

令和2年12月 (平成26年から毎年12月に実施)

3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校33校、中学校32校、高等学校17校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校	2,769人	(抽出率5.6%)	}	合計	7,254人	(抽出率5.6%)
中学校	2,769人	(抽出率5.7%)				
高等学校	1,716人	(抽出率5.2%)				

4 備考

本報告書において、

- ・ スマホ等とは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム機等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、LINE、Twitter、Instagram、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

令和3年5月

岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

(1) スマホ等の利用状況について

以下、小学生は「小」、中学生は「中」、高校生は「高」と表す。

〈概要〉

① スマホ等の所持率

自分のスマホ等を持っている割合は、小42.0%、中71.8%、高99.0%であり、小・中で増加傾向にある。

② 長時間利用の割合

「平日1日に平均3時間以上」スマホやゲーム機等を利用している割合は、小23.4%、中27.1%、高45.4%であり、前年度より、小・高で増加、中は減少している。

③ ネット等の利用率

普段、インターネット(以下「ネット」という。)やコミュニケーションサービスを利用している割合は、小75.2%、中87.5%、高97.8%である。

※小 (YouTube:76.3%)、中 (YouTube:85.8%)、高 (LINE:97.5%) が最も利用割合が高い

④ 情報端末の学習への活用

情報端末は、「学習で分からないことを調べる」、「学習ソフトやアプリの活用」、や「動画でスポーツや楽器の実技を見る」など、広く学習にも活用されている。

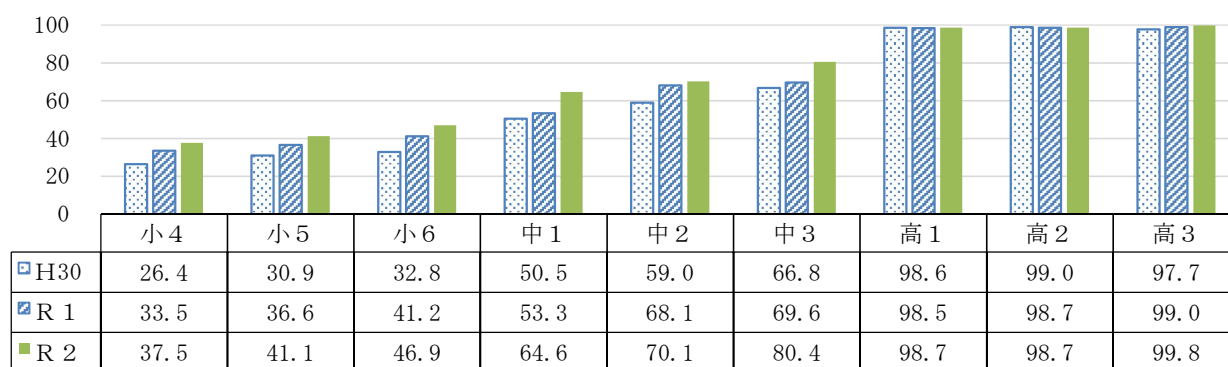
〈参考〉 新型コロナ対策による臨時休校時と調査時点(R2.12)とのスマホの利用時間の比較

- ・ いずれの校種も「変わっていない」が最も多い。
- ・ 自分のスマホ所持者のうち、小で約2割、中・高で約3割が増えたと回答している。
- ・ 増えた時間は、いずれの校種も2時間未満が約7割であった。

① 自分のスマホ等を持っているか

◆ 「自分専用のスマホ・携帯を持っている」と回答した割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

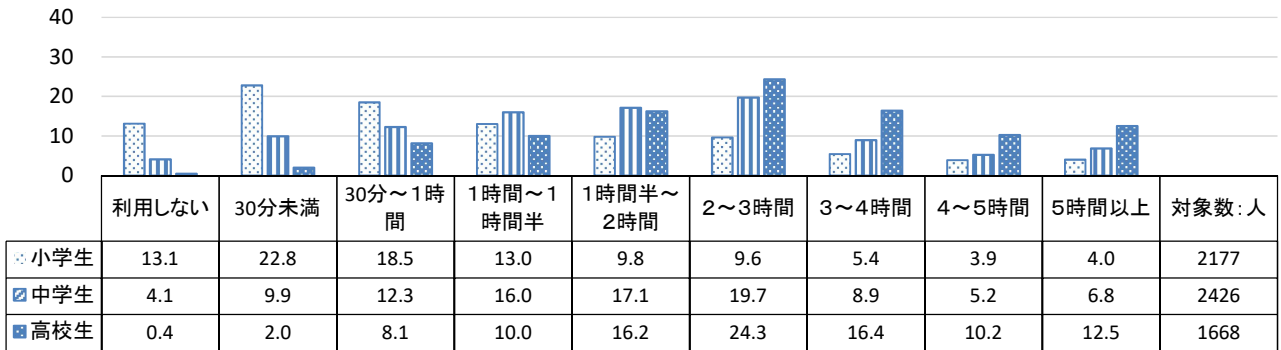


	小学生	中学生	高校生
H30	30.1	58.9	98.4
R1	37.0	64.1	98.7
R2	42.0	71.8	99.0

② 平日1日当たり、どれくらいスマホ等を利用しているか ※ 勉強の目的で利用している時間は除く

◆ 平日1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%)

＜自分専用のスマホ等を持っている又は家族のものを借りて使っている児童生徒の回答＞



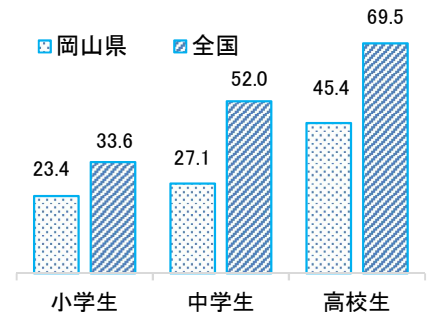
※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

◆ スマホ・携帯、パソコン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ゲーム機等、すべての情報機器端末の利用時間の合計を「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%)

＜本調査の回答者全員が対象＞

＜参考＞ 平日1日に3時間以上、スマホやゲーム等を利用する割合(%)

	H30	R1	R2	対R1増減	R2対象数：人
小学生	18.0	21.2	23.4	+2.2	2,769
中学生	27.9	28.6	27.1	-1.5	2,769
高校生	41.3	41.0	45.4	+4.4	1,716



全国値は、青少年のインターネット利用環境調査【内閣府 R3.2】による。

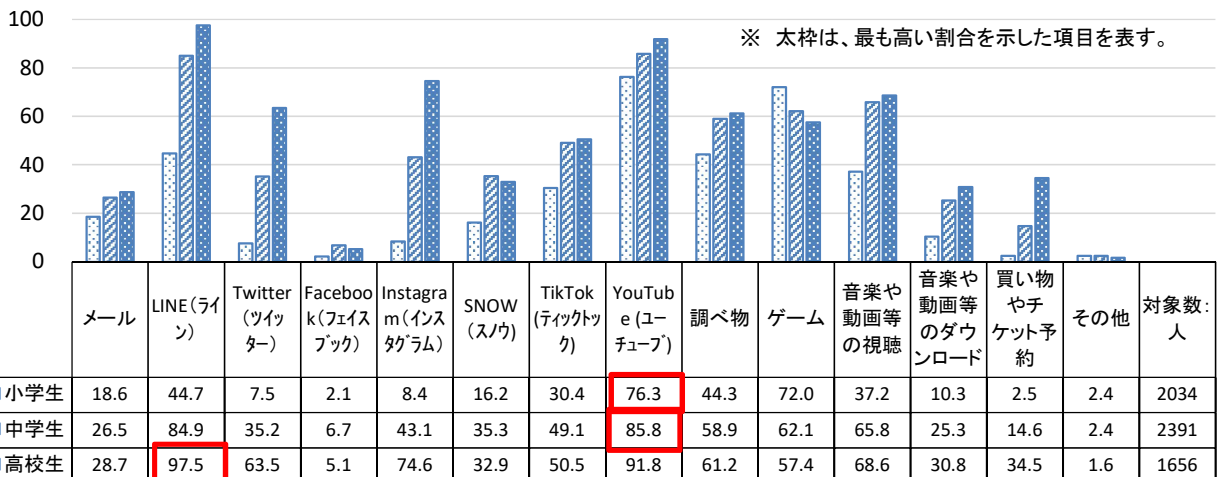
③ ネットやコミュニケーションサービスを利用しているか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用している」と回答した割合(%)

＜本調査の回答者全員が対象＞

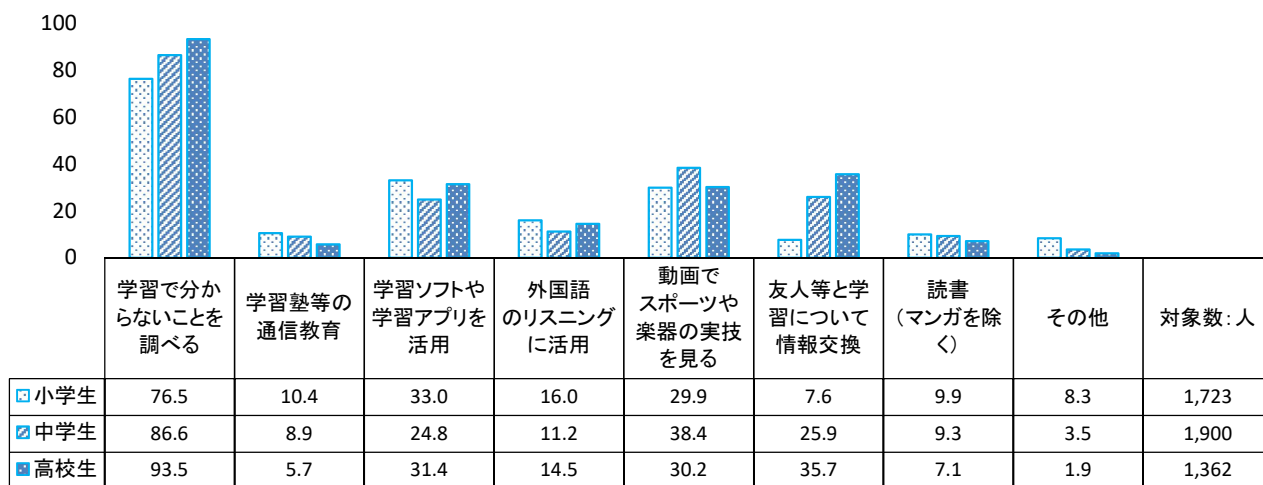
	H30	R1	R2	対R1増減	R2対象数：人
小学生	63.4	67.0	75.2	+8.2	2,769
中学生	83.6	85.0	87.5	+2.5	2,769
高校生	96.8	97.6	97.8	+0.2	1,716

◆ サービス形態別の利用率(%)【複数回答】 ＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞



④ 情報端末をどのように学習活動(習い事や部活を含む。)に活用しているか。【複数回答】

<スマホなどを学習活動に活用すると回答した児童生徒が対象>



<参考>新型コロナ対策による学校の臨時休校期間中と、今(R2.12)とのスマホの利用時間の比較

※ 勉強の目的で利用している時間を含む

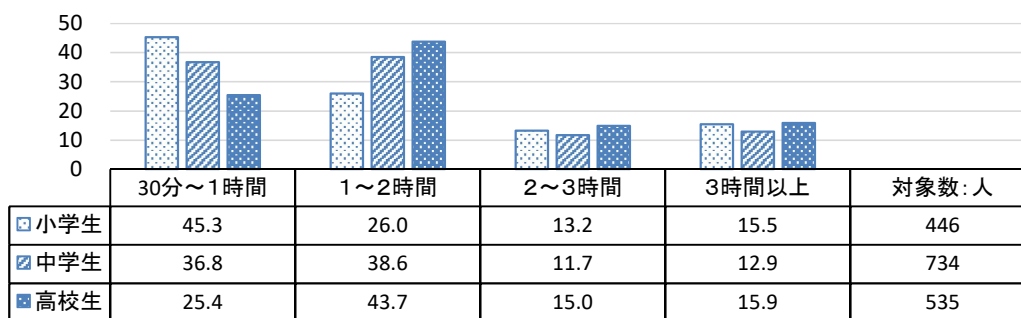
◆ 利用時間の変化(%)

<スマホを使っていると回答した児童生徒が対象>

	休校期間中より時間が増えた	休校期間中より時間が減った	時間は変わっていない	対象数:人
小学生	21.1	26.3	52.6	2,134
中学生	30.1	27.1	42.8	2,436
高校生	31.8	31.3	36.9	1,691

◆ 増えた時間の割合(%)

<使う時間が増えたと回答した児童生徒が対象>



◆ 時間が増えた理由

- ・毎日の宿題や自主勉強で調べ物をするようになった
- ・勉強を解説してくれる動画をみているから
- ・休校中に生活リズムが少し崩れたため
- ・コロナに関する情報を多く調べるようになったから
- ・学校とのやりとりを、オンラインでするようになったため
- ・勉強に集中できなかったり、集中力がきれてつい使ってしまったなど

(2) スマホやネット等を介したいじめやトラブルについて

〈 概要 〉

① 「嫌な経験をしたことがある」割合

スマホ、ネット、コミュニケーションサービスを利用して、「嫌な経験をしたことがある」と答えた割合は、小10.4%、中7.8%、高6.8%であり、前年度より、小で増加、中・高は減少している。

② 「悩みや不安を感じている」割合

ネットやコミュニケーションサービスを利用することで、「悩みや不安を感じることもある」と答えた割合は、小15.7%、中23.2%、高21.6%であり、前年度より、全ての校種で増加している。

③ フィルタリングの設定率

「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、小38.0%、中42.8%、高37.3%であり、前年度より、中で増加、小・高で減少している。

① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

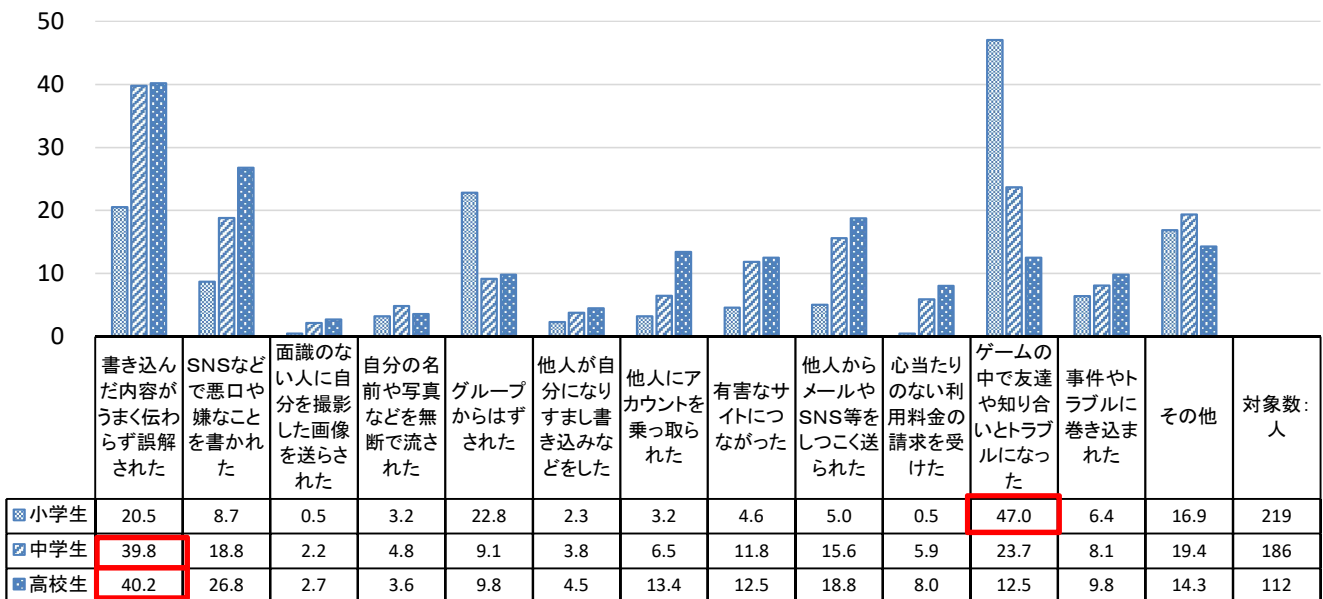
◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)

< ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答 >

	H30	R1	R2	対R1増減	R2対象数：人
小学生	6.9	9.1	10.4	+1.3	2,002
中学生	15.9	12.0	7.8	-4.2	2,374
高校生	19.5	10.9	6.8	-4.1	1,641

◆ 「経験した嫌なこと」の割合(%) 【複数回答】

< ネット利用によって嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答 >



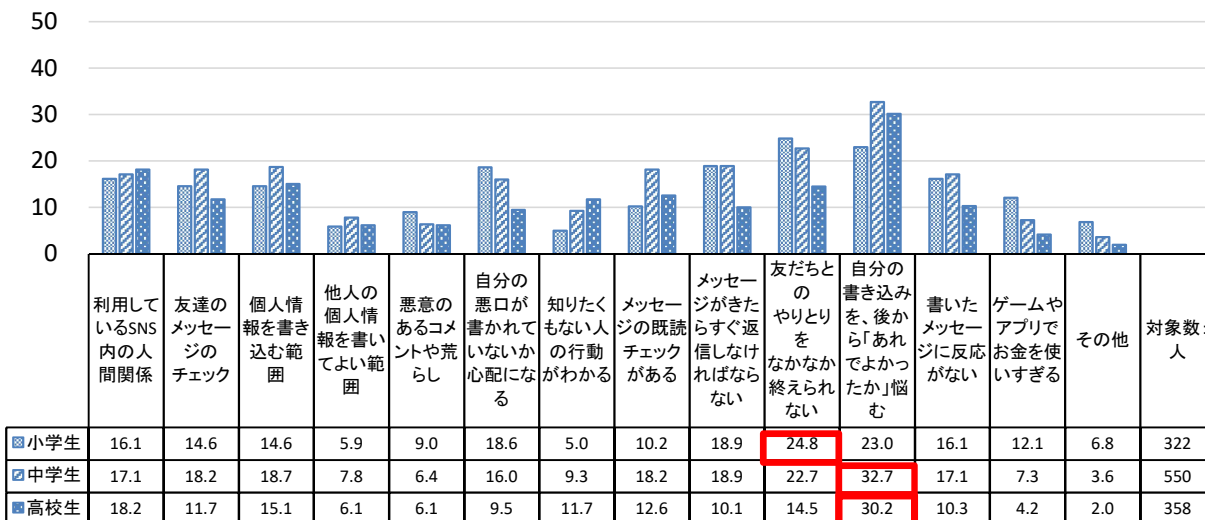
※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。

② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

- ◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある」と回答した割合(%)
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある児童生徒の回答>

	H30	R1	R2	対R1増減	R2対象数：人
小学生	8.6	11.1	15.7	+4.6	2,037
中学生	17.1	12.7	23.2	+10.5	2,392
高校生	15.9	12.8	21.6	+8.8	1,657

- ◆ 具体的な悩みや不安の内容別の割合(%)【複数回答】
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある児童生徒の回答>



※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。

③ フィルタリングの設定に関する児童生徒の割合(%)

<自分専用のスマホ等を持っている児童生徒の回答>

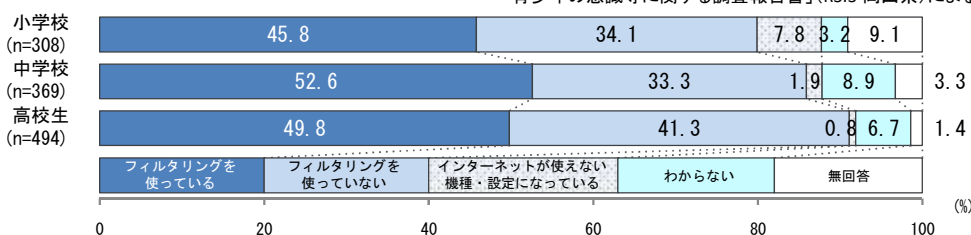
※ ()はR1との増減

	H30	R1	R2			R2対象数：人
	設定している	設定している	設定している	設定していない	わからない	
小学生	38.4	42.0	38.0 (-4.0)	23.2	38.9	1,114
中学生	34.3	38.7	42.8 (+4.1)	24.3	32.9	1,924
高校生	38.1	40.8	37.3 (-3.5)	33.0	29.7	1,625

※ 「設定している」には、「ネットは使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

<参考> 保護者対象：スマートフォン、タブレットなどのフィルタリングの利用状況調査

「青少年の意識等に関する調査報告書」(R3.3 岡山県)による。



※ 「n」は、パーセントを計算するときの母数となる回答者数を示している。

(3) スマホ等の利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性等に関する学習について

〈 概要 〉

① 家庭のルールの有無

スマホ等の利用に関する家庭のルールが「ある」と答えた割合は、小61.6%、中52.0%、高25.6%であり、前年度より、中・高で増加している。

また、「ペアレンタルコントロールを利用している」と答えた割合は、小23.8%、中23.5%、高8.8%であり、前年度より、小・中で増加している。

② 家庭のルールの内容

ルールの内容については、全ての校種で、「使う時間」、「知らない人からのメール等に返信しない」、「他人が傷つくような書き込み等はない」が多く、小・中では「困った時は保護者に相談する」も多い。

③ 危険性等の学習の状況

スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりしたことがある」と答えた割合は、小85.5%、中94.7%、高96.4%であり、前年度より、中・高で増加、小は減少している。

また、全国と比較すると、小で+9.9%、中で+3.9%、高で+3.8%と、全ての校種でその割合は高い。

① スマホ等の利用に関して家庭のルール等が設定されているか

◆ 家庭のルール等の有無に関する回答の割合(%)
 < 普段からインターネットやSNSを利用している児童生徒の回答 >

	H30	R1	R2		R2対象数:人
	ある	ある	家庭のルールがある	ない	
小学生	53.5	61.9	61.6(-0.3)	38.4	2,037
中学生	46.7	49.4	52.0(+2.6)	48.0	2,392
高校生	21.2	20.6	25.6(+5.0)	74.4	1,657

※ ()はR1との増減

◆ ペアレンタルコントロールが利用されている児童生徒の割合(%)
 < 自分専用のスマホ等を持っている児童生徒の回答 >

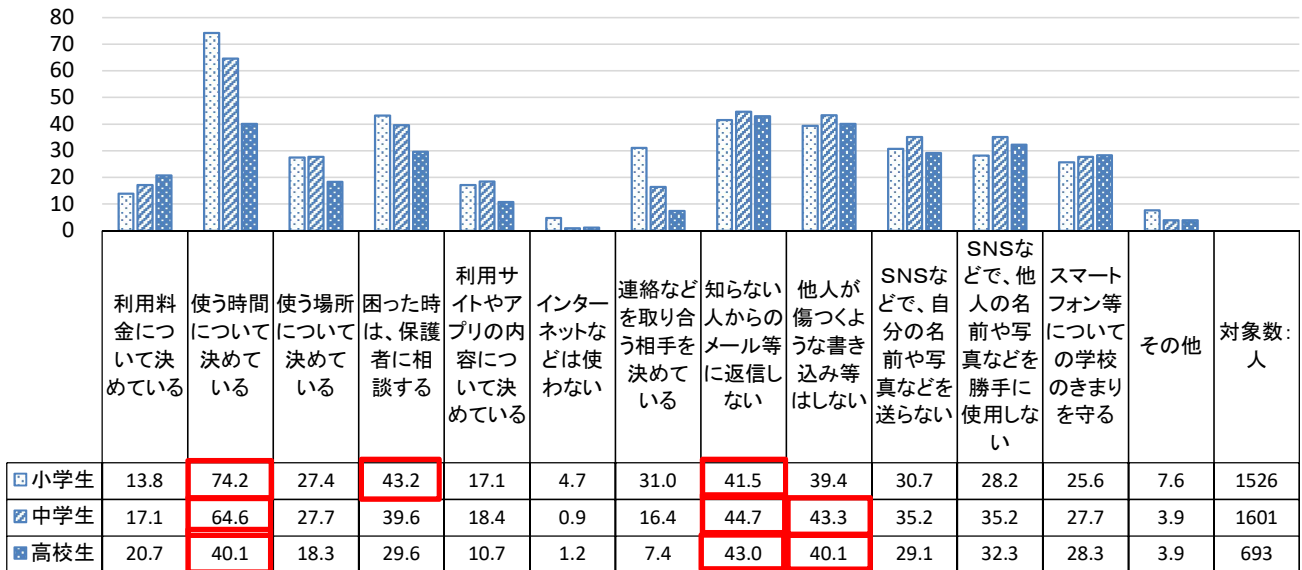
	R1	R2			R2対象数:人
	はい	はい	いいえ	不明	
小学生	22.0	23.8(+1.8)	42.4	33.8	1,114
中学生	19.7	23.5(+3.8)	54.2	22.2	1,924
高校生	9.6	8.8(-0.8)	74.1	17.1	1,625

※ ()はR1との増減

② どのようなルールを決めているか【複数回答】

◆ 家庭のルール等の内容に関する回答の割合(%) <スマホ等の利用に関して家庭のルール等が設定されている児童生徒が回答>

※ 太枠は、高い割合を示した上位3項目を表す。



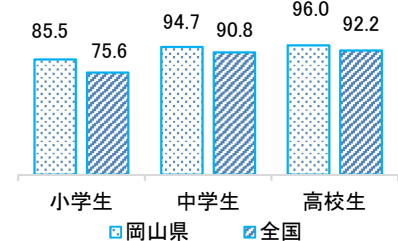
③ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合(%)

◆ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりした」経験の有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	H30	R1	R2			R2対象数：人
	ある	ある	ある	ない	不明	
小学生	85.8	90.6	85.5 (-5.1)	6.7	7.8	2,750
中学生	92.6	93.5	94.7 (+1.2)	2.5	2.8	2,743
高校生	93.8	96.0	96.4 (+0.4)	1.7	1.9	1,706

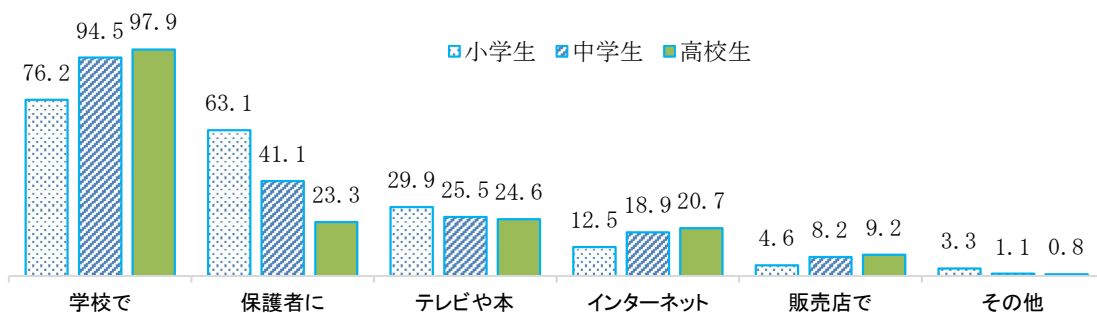
※ スマホ等の危険性の学習の状況



全国値は、青少年のインターネット利用環境調査【内閣府 R3.2】による。

◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)【複数回答】

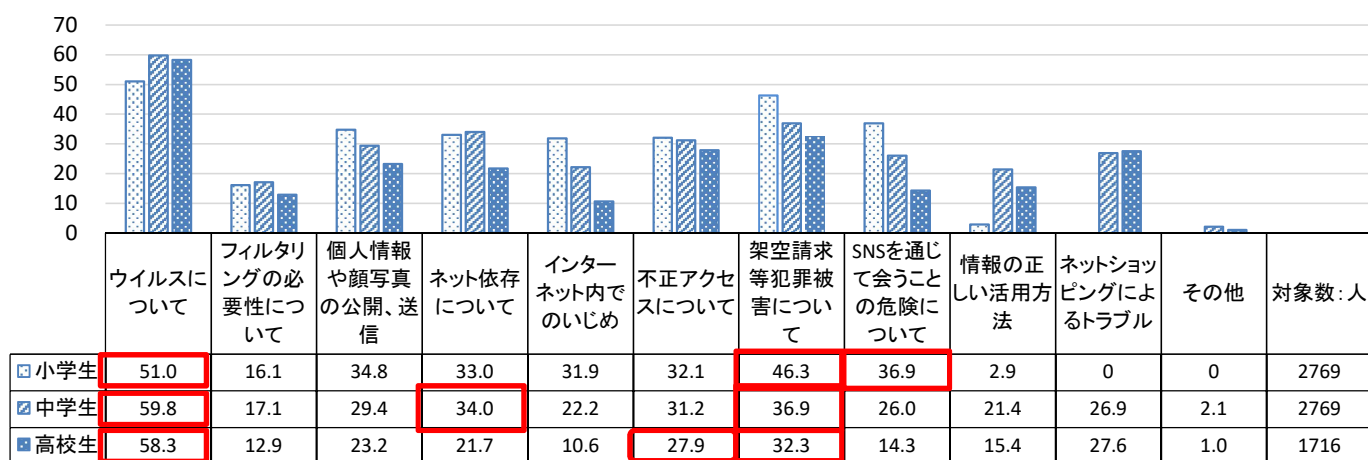
<スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答>



◆ スマホやネットの危険性について、なにを学びたいかの回答割合(%)【複数回答】

<本調査の回答者全員が対象>

※ 太枠は、高い割合を示した上位3項目を表す。



<参考>

今後、ICTの活用が進んでいく中、学校の教育活動において、どのようなことで利用すると便利だと思うか

<中・高の生徒のみ回答>

- ・オンライン授業
- ・宿題の配信や提出
- ・小テストに活用すれば、紙資源の削減になる
- ・自分で情報を集めて、発表する方法として利用する
- ・繰り返し先生の説明を聞くことができる
- ・休校中に、リモートワークができ、先生たちとコミュニケーションがとれる
- ・コロナ禍で交流できなかった外国人と交流できる
- ・動画で予習や復習ができたらい
- ・テストで間違えた問題をタブレットに記録して、自分が間違いやすい系統の問題を把握する
- ・グラフを見たり、実際に動植物の写真や映像を見られたりするようになれば便利だと思う
- ・G-suiteのドライブやclassroomを通して、様々な情報を共有できること
- ・発表をする時、各自の考えをタブレットで閲覧できるようにすると便利
- ・スケジュール管理
- ・タブレットをノート代わりにする

など

【参考】 ネット依存傾向について＜令和2年度岡山県学校保健概要調査（R2.12）から＞

○ネット依存 ＜アメリカ心理学者 キンバリー・ヤング（1965－2019）＞

「インターネットに過度に没入してしまうあまり、コンピューターや携帯が使用できないと何らかの情緒的苛立ちを感じることで、また実生活における人間関係を煩わしく感じたり、通常の対人関係や日常生活の心身状態に弊害が生じているにも関わらず、インターネットに精神的に嗜癖してしまう状態」

【ネット依存傾向チェックシートの概要】－保健体育課－

◆小学生:簡易版8項目 ※○の数で判定

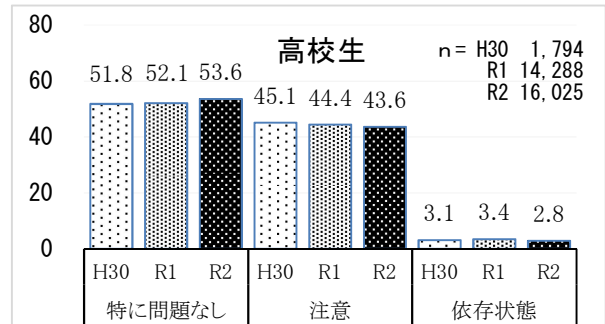
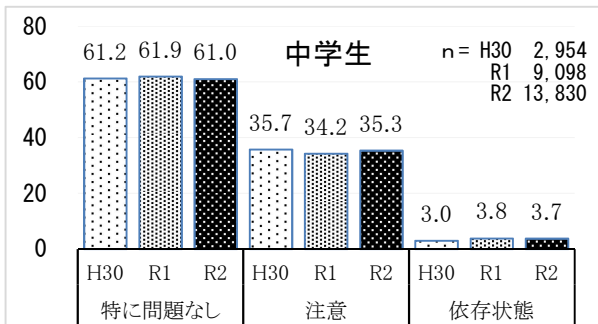
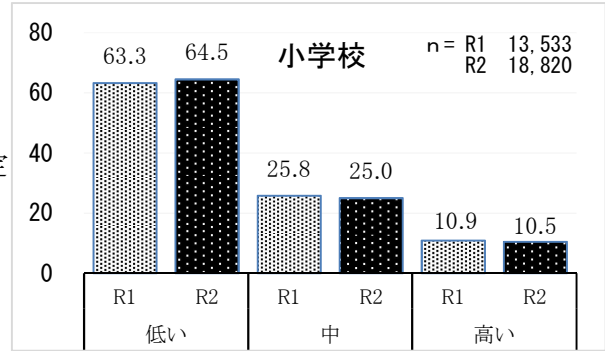
低い：0～2個 中：3～4個 高い：5～8個

◆中・高校生:詳細版20項目 ※各項目5点の点数化で判定

総得点 ①特に問題なし：20～39点

②注意：40～69点

③依存状態：70～100点



◆簡易版8項目(小学生)

- ① ネットに夢中になっていると感じることがある。
- ② 満足感を得るために、ネットを使う時間を長くしたいと感じることがある。
- ③ ネットの利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとして失敗したことがたびたびある。
- ④ ネットの使用時間を短くしたりやめようとすると、落ち着かなかったり、不機嫌になったり、落ち込んだり、イライラしたりすることがある。
- ⑤ 使い始めに思っていたよりも、長い時間、ネットをつないだ状態であることがある。
- ⑥ ネットのために、大切な人間関係、学校のことや部活動のことを台無しにしたり、危うくすることがある。
- ⑦ ネットへの熱中しすぎを隠すために、家族、先生やそのほかの人たちに嘘をついたことがある。
- ⑧ 自分にふりかかった問題から逃げるため、または絶望、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるために、ネットを使うことがある。

◆詳細版20項目(中・高校生)

- ① 気がつくかと思っていたより長い時間、ネット等を利用していることがある。
- ② 長い時間ネット等を利用していたために、家の手伝いや役割をおろそかにすることがある。
- ③ 家族や友達と過ごすよりも、ネット等の利用を優先したいと思うことがある。
- ④ ネット等を介して、新しく知り合い(友人を含む)を作ることがある。
- ⑤ まわりの人から、ネット等の利用時間や回数について注意されたことがある。
- ⑥ ネット等をしている時間が長く、学校の成績に影響することがある。
- ⑦ ネット等への関わりが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある。
- ⑧ 他にやらなければならないことがあっても、まず先に、LINE(ライン)やTwitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、メールなどをチェックすることがある。
- ⑨ 人に、ネット等で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある。
- ⑩ 日々の生活の問題から気をそらすために、ネット等で時間を過ごすことがある。
- ⑪ 気がつけば、また次のネット等の利用を、楽しみにしていることがある。
- ⑫ ネット等のない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある。
- ⑬ ネット等を利用している最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある。
- ⑭ 夜遅くまでネット等に関わるのが原因で、睡眠時間が短くなっている。
- ⑮ ネット等をしていないときでも、ネット等のことを考えてぼんやりしたり、ネット等をしているところを空想したりすることがある。
- ⑯ ネット等をしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある。
- ⑰ ネット等をやる時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある。
- ⑱ ネット等をしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある。
- ⑲ 誰かと外出するより、ネット等を利用することを選ぶことがある。
- ⑳ ネット等をしている時は何ともないが、ネット等をしていない時はいらいらしたり、憂鬱な気持ちになったりする。

(独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター資料等より)

(4) 成果と課題

＜主な成果と課題＞ 成果：○ 課題：▲ ※①はR1、②はR2を示している。

○「家庭のルールがある」割合は、前年度より、中・高で増加している。

＜小＞ ① 61.9% → ② 61.6% ＜中＞ ① 49.4% → ② 52.0% ＜高＞ ① 20.6% → ② 25.6%

○「ペアレンタルコントロールを利用している」割合は、小・中で増加している。

＜小＞ ① 22.0% → ② 23.8% ＜中＞ ① 19.7% → ② 23.5% ＜高＞ ① 9.6% → ② 8.8%

○▲スマホやネットの危険性を、「教えてもらったり、学んだことがある」割合は、小で減少したものの、中・高で増加しており、また、全ての校種で全国よりも高い。

＜小＞ ① 90.6% → ② 85.5% ＜中＞ ① 93.5% → ② 94.7% ＜高＞ ① 96.0% → ② 96.4%

○▲「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」割合は、中・高で減少したものの、小で増加しており、特に所持率が増加している小学生に対して、情報モラルの指導、保護者への啓発を更に充実していく必要がある。

＜小＞ ① 9.1% → ② 10.4% ＜中＞ ① 12.0% → ② 7.8% ＜高＞ ① 10.9% → ② 6.8%

○▲「平日1日に平均3時間以上」スマホ・ゲーム機等を利用している割合は、中では減少に転じたものの、小・高で増加しており、引き続き、利用時間や内容を把握しながら、長時間利用の課題に対する取組を進めていく必要がある。

＜小＞ ① 21.2% → ② 23.4% ＜中＞ ① 28.6% → ② 27.1% ＜高＞ ① 41.0% → ② 45.4%

＜今後の取組＞

県のスマホ・ネット問題総合対策の推進により、学校やPTA、市町村教委において、引き続き積極的に児童生徒の主体的な活動や、家庭でのルールづくりに関する保護者啓発等の取組の充実を図る。

① 児童生徒の主体的な取組の促進

- ・スマホサミット等により、スマホやネットの適切な利用や、情報端末の学習や日常生活への有効活用に関する協議・取組を促進する。

② 児童生徒への情報モラル教育の更なる充実

- ・中核教員の養成研修を経た教員を中心に、児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育を実施
- ・校内研修資料の作成と各校への提供
- ・ネット上のゲームによるトラブル事例等に関する啓発チラシを作成、保護者に配付し、注意喚起を図る。

③ 家庭や地域への啓発活動の充実

- ・リーフ「スマホ購入 虎の巻！！」や、事業者別・機種別にペアレンタルコントロールの設定の仕方を解説した動画資料「わが家のスマホアクション」を入学説明会や保護者面談等で周知・活用し、家庭のルールづくりを更に推進する。
- ・ルールづくりに関する参加型のワークショップ(利用時間制限やアプリ制限等のペアレンタルコントロール設定等)の実施

④ スマホを含む情報端末の学習への活用を推進

- ・現在、県総合教育センターHPで学校に紹介している教職員のICT活用指導力の向上のための「教育の情報化ユニット研修」(31項目の動画資料)など、今後も具体的な活用方法を示していくことで、スマホを含む情報端末の学習への活用を推進

スマホ・ネット問題総合対策の推進

子どもをめぐるスマホ・ネット問題とは

- * 長時間ゲームをするなどのネット依存
- * 誹謗中傷やいじめにつながる仲間外しなどのネット上の人権侵害
- * 課金、犯罪被害に遭うなどのネットトラブル

背景は

- * いつでもどこでも簡単にネットに接続できる環境
- * 児童生徒のスマホ等の所持率の増加
- * 情報メディアの活用に関する知識・技術の不十分さ
- * 情報社会のルールやマナー習得の不十分さ
- * 保護者、大人の知識・技術、危機意識の低さ 等

現状と取組の目標指標

○家庭でのルールづくりの促進（家庭でのルールがあると答えた割合）

H28実績 小(60.0%) 中(47.1%) ⇒ R1実績 小(61.9%) 中(49.4%) ⇒ R6目標値 小(65%) 中(55%)



学校

児童生徒の主体的な活動の促進

継続・成果普及

【教育委員会】

- 『OKAYAMAスマホサミット2021』の開催
 - ・ 中学校部会、高校部会の開催による発達段階に応じた取組の活性化
 - ・ 保護者部会の開催による、家庭でのルールづくりに向けた啓発活動について協議
 - ・ 成果報告会(12月)の開催
※教職員・保護者対象

ネット依存への対策

継続・成果普及

【教育委員会】

- ネット依存の未然防止や早期対応
 - ・ ネット依存防止マニュアルの活用と指導の推進
 - ・ 教職員への研修の充実

ネット上のいじめ・トラブルへの対応

継続

【教育委員会】

- アプリを利用した相談・報告システムの活用
 - ・ スマホ等を介して匿名で学校にいじめ等を報告・相談できるシステムを全県立学校で活用し、早期発見・早期対応を促進

実態把握に基づく対応の推進

継続

【教育委員会】

- スマートフォン等の利用に関する実態調査
 - ・ 児童生徒の利用実態に関する調査を継続し、取組全体の効果検証と課題を把握し、指導に活用
- 学校保健概要調査
 - ・ ネット依存に関する取組や児童生徒の依存傾向等を実態把握し、指導に活用

家庭・地域等

家庭・地域等への啓発活動の促進

継続・強化

【教育委員会】

- ペアレンタルコントロールの普及
 - ・ 新入生説明会、保護者懇談会等で啓発資料を直接配付し、ペアレンタルコントロールの普及啓発
- P T A 研修会の充実
 - ・ ペアレンタルコントロールの普及啓発等、参加型のワークショップを取り入れ、スマホ・ネットとの付き合い方について話し合うことで、家庭でのルールづくりを促進
- 優良実践 P T A の取組を普及
 - ・ スマホ・ネット問題で成果を上げているPTAの好事例を収集し、県内に普及
- 就学前の保護者研修の充実
 - ・ 親育ち応援学習プログラムの活用を促進
 - ・ 入学説明会や検診等の機会を活用し早期啓発を強化
- 地域住民等への啓発活動の推進
 - ・ 地域学校協働本部等と連携した研究機会の充実
 - ・ 学校通信等を活用した啓発活動を推進
 - ・ 家庭教育企業出前講座の取組を推進

連携

連携

連携

関係機関等と連携した対応

継続

- 『スマホ・ネット問題解決タスクフォース』
 - ・ フィルタリングやペアレンタルコントロールの設定促進など、携帯電話事業者も参画した官民一体の取組を推進
【男女共同参画青少年課】
- 『非行防止教室』
【県警本部少年課】
- ネットパトロール
【教育委員会】

学校と家庭・地域が連携し、子どもを守る体制の構築